

平成24年度第3回野菜需給・価格情報委員会の概要

1 日時

平成25年3月14日（木）13:30～15:30

2 場所

独立行政法人農畜産業振興機構 南館1階会議室

3 概要

「平成24年産秋冬野菜の需給・価格の実績」（資料1）及び「カット野菜製造の実態と市場動向」（参考資料4）の説明の後、春野菜の需給・価格の見通しについて、3月7日開催の消費分科会で出された意見等を踏まえ意見交換。その概要を藤島座長が取りまとめ、各委員に了承を得た上で、3月19日開催の平成24年度第3回野菜需給協議会に報告することとなった。

春野菜の需給・価格の見通しに関する各委員からの意見は以下のとおり。

（1）春キャベツ（4～6月）

ア 作付面積・生育状況の概要

- ・低温の影響により生育が遅れていたが、4月の出荷が潤沢と見込まれることから、価格は、4月及び5月は前年を下回り、6月は前年並みの見込み。
- ・関東産では、降雪の影響により傷みが多いものが出まわる可能性がある。
- ・加工・業務用においては、春キャベツよりも寒玉系の引き合いが強く、3～5月に関しては、中国産や韓国産及び冷蔵貯蔵ものでの対応が増えてくる。
- ・浅漬けの需要期であるが、生育が遅れている神奈川、千葉の出荷状況によって、浅漬けの販売に影響が出てくるのではないかと。

（2）春だいこん（4～6月）

- ・4月及び5月は概ね順調な出荷が見込まれることから、価格は、4月は前年が高値だったことから前年を下回り、5月は前年並みの見込み。6月は青森の出荷が少なければ、価格は、前年を上回る見込み。
- ・青森は、融雪が遅れ、は種が遅くなると、6月の入荷が少なくなる可能性もある。
- ・加工・業務用において、ツマは安定している商材である。昨年は、高値の影響で中国と韓国から輸入した。今年も輸入の準備をしているが、国産で対応は可能であると思われる。

（3）たまねぎ（4～6月）

- ・北海道の貯蔵ものが多く残っており、府県産の出荷も概ね順調と見込まれることから、価格は、前年を下回る見込み。
- ・北海道の貯蔵ものよりも中国産の剥きたまねぎの価格の方が高くなっている。

- ・加工・業務用では、中国産の値上げもあり、国産需要が増える見込みである。しかし、夏以降、中国国内の産地が切り替わり、中国産の価格が下がると、再び中国産にシフトする動きも出てくるのではないか。
- ・加工・業務用では、中国の作付減少や不作による高値により、ニュージーランド産、アメリカ産や豪州産にシフトする動きが見られた。

(4) 春夏にんじん（4～7月）

- ・4月は出荷が増加すると見込まれることから、価格は前年を下回り、5月は出荷が減少すると見込まれることから、価格は前年を上回り、6月及び7月の価格は前年並みの見込み
- ・春夏にんじんは、卸売価格がキロ単価150円以上でないと、再生産価格の問題により生産が減少してくるのではないか。
- ・徳島、千葉の価格は、台湾産、中国産や豪州産の輸入量に左右されてくる。
- ・カット野菜では、単価と歩留まりの関係から冬作の千葉や中国産を使用する傾向があり、通年同一価格を求められる状況では、輸入ものに頼らざるを得ない状況である。
- ・加工・業務用では、国産が高値の中、中国産が安値傾向なので、中国産の引き合いがあり、引き続き使用されていく。

(5) 春はくさい（4～6月）

- ・消費が減少する時期となる中で順調な出荷が見込まれることから、価格は、期間を通して前年を下回る見込み。
- ・年末の高値から量販店ではカット販売が定番となっているため、高い単価は望めないのではないか。
- ・若年層の野菜離れによる影響は、はくさいが一番厳しい状況ではないか。
- ・加工・業務用では、中華料理で安定的に使用されるが、鍋需要がなくなるので売上は減少する。
- ・漬物メーカーは、春はくさいの遅れを見込み、冷蔵庫に大量の在庫を抱えている状況である。

(6) 春レタス（4～5月）

- ・期間を通して順調な出荷が見込まれることから、価格は、前年を下回る見込み。
- ・カット野菜にする時のロスが多く、価格の変動が大きいのでカット野菜の原料としては使いづらく、他の葉物野菜に代わってきているのではないか。
- ・最近の価格の落ち着きにより動きが活発化してきているので、春レタスの大暴落は避けられると思われる。
- ・価格は、香川や兵庫の出荷量に左右をされてしまう。
- ・春レタスは、関東の近在産地で歩留まりも良いので、カットレタスを売りやす

い時期である。